

タテ科 イヌタテ属

ヤナギタテ (柳蓼)

Persicaria hydropiper (L.) Delarbre

自生環境

水田、湿地 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



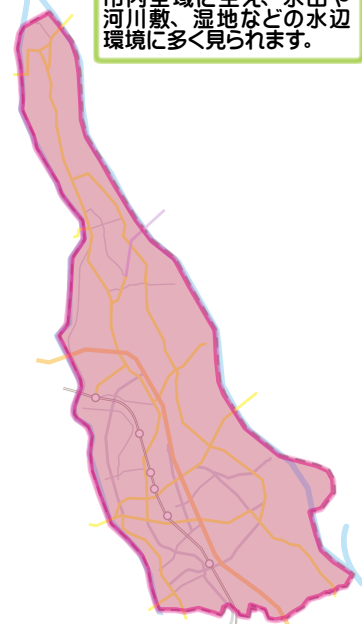
現時点では水辺に普通で、数も多く絶滅の心配はありません。ただ、水田とその周りに多く生える傾向があるため、農薬の種類変更などによって影響が出る可能性があります。

特徴

- ☆ 水田や湿地、河川敷などの水辺環境に普通に生えるタテの仲間です。稲刈り後の水田周辺で特に見つけやすい傾向があります。湧水のある場所では、水中で流れにたなびきながらまるで水草のように育つこともあります。
- ☆ ことわざ「蓼(タテ) 食う虫も好き好き」の蓼は、このヤナギタテのことです。ヤナギタテの葉はかじると強い辛みがあります。こんな辛い葉でも好んで食べる虫がいるのと同様に、人の好みはさまざまだという意味合いがあります。
- ☆ 早いものでは7月頃から穂を出しはじめますが、本格的な花期は秋になってからです。花は茎の先だけではなく、葉のつけ根にも、鞘の中に包まれるようにして何個かつきます。

市内の分布状況

市内全域に生え、水田や河川敷、湿地などの水辺環境に多く見られます。



刺身のつまにも

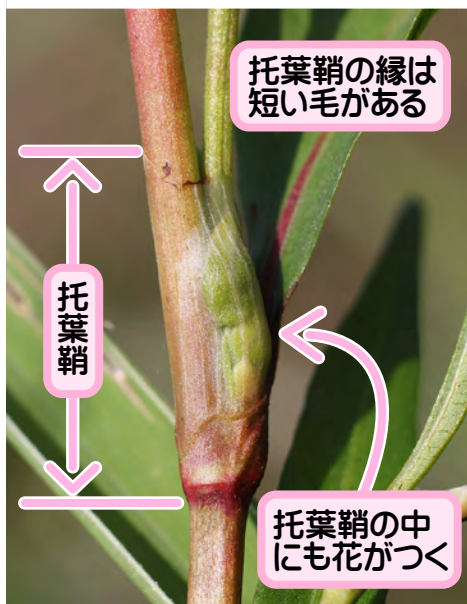
かじるとピリツとした辛みのあるヤナギタテは、昔から香辛野菜としても利用されてきました。そのことからホンタテ、マタテ(本物、真のタテ)という別名もあります。葉が赤紫色のムラサキタテ(紅たて)などの栽培品種もあります。若い苗はアユの塩焼きに添えたり、すりおろして酢と混ぜて「タテ酢」にします。また、タネから芽生えたばかりのものは芽タテと呼び、刺身のつまに添えられます。



花の穂は垂れさがる



花は白色で少し緑やピンクがかかる



托葉鞘の縁は短い毛がある

托葉鞘

托葉鞘の中にも花がつく



芽生えたばかりのふたばを刺身のつまにする

品種

ムラサキタテ



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

